

ノロウイルス検出キットG1/G2-高速検出-
整理番号 1976A
作成 2016年5月27日



安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ノロウイルス検出キットG1/G2-高速プローブ検出-
製品コード	FIK-253
供給者の会社名称	東洋紡株式会社
住所	大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
担当部門	ライフサイエンス事業部
電話番号	06-6348-3786
FAX番号	06-6348-3833
推奨用途及び使用上の制限	ノロウイルス核酸検出試薬(研究用)

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性
物理化学的危険性
健康有害性

常温では特に危険性はない。
酵素液には、皮膚刺激性、眼刺激性のあるグリセロールが含まれる。
危険有害性の調査が十分でなく、取扱に注意する。

GHS分類

		反応液	プライマー液	プローブ液
物理化学的危険性	引火性液体	区分外	区分外	区分外
健康有害性	皮膚腐食性・刺激性	分類できない	区分外	区分外
	眼損傷・眼刺激性	分類できない	区分外	区分外
環境有害性		分類できない	区分外	区分外
		酵素液	前処理液	
物理化学的危険性	引火性液体	区分外	区分外	
健康有害性	皮膚腐食性・刺激性	分類できない	分類できない	
	眼損傷・眼刺激性	区分2B	分類できない	
環境有害性		分類できない	区分外	
ラベル要素				

絵表示又はシンボル
注意喚起語
危険有害性情報
注意書き

酵素液
-
警告
眼刺激

取り扱い後は手をよく洗う。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受ける。

ノロウイルス検出キットG1/G2-高速検出-
整理番号 1976A
作成 2016年5月27日



安全データシート

3. 組成及び成分情報

化学物質/混合物	混合物	CAS No. (EC No.)
化学特性	酵素、基質等の水溶液	
パーツ名	主要成分	
反応液	トリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン	77-86-1
	デオキシアデノシン三リン酸ナトリウム	1927-31-7
	デオキシシチジン三リン酸ナトリウム	102783-51-7
	デオキシグアノシン三リン酸ナトリウム	93919-41-6
	デオキシウリジン三リン酸	102814-08-4
	硫酸マグネシウム	7487-88-9
	ポリ(オキシエチレン) = ノニルフェニル = エーテル	9016-45-9
酵素液	DNAポリメラーゼ	(EC 2.7.7.7)
	リバーstransクリプターゼ	9068-38-6
	リボヌクレアーゼ阻害剤	-
	トリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン	77-86-1
	塩化カリウム	7447-40-7
	ウラシルDNAグリコシラーゼ	59088-21-0
	グリセロール	56-81-5
	ジチオスレイトール	3483-12-3
	ポリ(オキシエチレン) = オクチルフェニル = エーテル	9002-93-1
プライマー液	トリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン	77-86-1
	DNA (プライマー)	-
プローブ液	トリス(ヒドロキシメチル)アミノメタン	77-86-1
	DNA (プローブ)	-
前処理液	グリコールエーテルジアミン四酢酸・2ナトリウム	26082-78-0
危険有害成分		
化学名又は一般名	グリセロール	ポリ(オキシエチレン) = オクチルフェニル = エーテル
別名	グリセリン	Triton X-100
CAS番号	56-81-5	9002-93-1
官報公示整理番号 化審法	2-242	7-172
安衛法	公表	公表
含まれるパーツと濃度範囲	酵素液:50%	酵素液:0.2%以下
化学名又は一般名	ポリ(オキシエチレン) = ノニルフェニル = エーテル	
別名	ノニデット P-40	
CAS番号	9016-45-9	
官報公示整理番号 化審法	7-172	
安衛法	公表	
含まれるパーツと濃度範囲	反応液、酵素液 :0.01%未満	



安全データシート

4. 応急措置
- 吸入した場合
直ちに新鮮な空気のある場所に移し、気分が悪くなった場合は医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合
皮膚についた場合、大量の水と石鹸で洗う。汚染された衣類はすべて脱ぐ／取り除く。皮膚刺激が生じた場合には医師の診断、手当てを受ける。
- 眼に入った場合
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合
水で口の中を洗浄し、速やかに医師の手当てを受ける。無理に吐かせない。
5. 火災時の措置
- 消火剤
水、二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤
- 消火を行う者の保護
消火は風上から行う。
大規模な火災の場合は呼吸用保護具を着用する。
6. 漏出時の措置
- 人体に対する注意事項、保護具、緊急時措置
眼、皮膚への接触、吸入を避ける。
- 環境に対する注意事項
環境中へは直接廃棄しない。
- 封じ込め及び浄化方の方法及び機材
可能な限り、砂または他の不燃性吸着剤に吸着させて空容器に回収する。作業の際には必ず保護具を着用する。風下で作業しない。
7. 取扱い及び保管上の注意
- 取扱い
- 技術的対策
適切な保護具を着用する。
- 安全取扱い注意事項
眼、皮膚、衣服への接触を避け、取扱い後は充分洗浄する。
- 衛生対策
取扱い場所を常に整理整頓し、清潔に保つ。
- 保管
- 安全な保管条件
密封容器にて-20℃±5℃で保管する。
- 安全な容器包装材料
本製品に使用されている容器内で保管する。
8. ばく露防止及び保護措置
- 保護具
- 呼吸用保護具
必要に応じて防毒マスク又は簡易防毒マスクを着用する。
- 手の保護具
ゴム手袋を着用する。
- 眼の保護具
保護眼鏡を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具
必要に応じて保護衣を着用する。



安全データシート

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状态、形状、色)	常温で液体。酵素液は-30℃以下、その他のパーツは0℃以下で固体。プローブ液は薄い青紫色、その他のパーツは無色透明。
臭い	全てのパーツで臭いはほとんどない。
pH	6～10.5
引火点	水溶液のため引火性はないと考えられるが、酵素液は水分蒸発後177℃の引火点を持つグリセロールが残留する。
爆発特性	常温では爆発性はない。
密度	データなし
溶解性	水に可溶

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性、危険有害反応可能性	通常の条件下では安定である。
避けるべき条件	高温、直射日光、火災などによる強熱、強酸化剤、還元剤
危険有害な分解生成物	知見なし

11. 有害性情報

急性毒性	データなし
局所効果	眼や皮膚の粘膜を刺激し、結膜炎などの炎症を起こす可能性がある。
各成分の有害性情報	グリセロール ポリ(オキシエチレン)＝オクチルフェニル＝エーテル
急性毒性	マウス経口： ラット経口： ラット経口： ウサギ経皮： 4090mg/kg 12.6g/kg 1800mg/kg > 3g/kg
皮膚腐食性及び刺激性	ウサギ：500mg/24hr:Mild 知見なし
眼に対する重篤な損傷性又は刺激性	ウサギ：500mg/24hr:Mild ウサギの眼に試験物質の10%液を0.1 mL適用した試験(OECD TG405)において、刺激性(角膜混濁、虹彩炎、結膜の発赤と浮腫)が認められたが、症状は全て適用後7～21日にほぼ回復し、MMAS(AOIに相当)=68.7であった(ECETOC TR 48(2)(1998))との報告がある。 知見なし
生殖毒性	知見なし
発癌性	知見なし
日本産業衛生学会	記載なし
IARC	記載なし
ACGIH	記載なし

ノロウイルス検出キットG1/G2-高速検出-
整理番号 1976A
作成 2016年5月27日



安全データシート

15. 適用法令

含有する成分には下記の法規制情報がある。

	グリセロール	ポリ(オキシエチレン) = オクチルフェニルエーテル
化審法(特定化学物質/監視化学物質)	該当しない	該当しない
消防法	危険物第4類引火性液体第3石油類水溶性液体	該当しない
欧州REACH規制	該当しない	高懸念物質(SVHC)
海洋汚染防止法	施行令別表第1有害液体物質(Z類物質等)	環境省告示・査定物質(Y類同等の有害液体物質)
化学物質管理促進法 指定化学物質(政令番号)	該当しない	法第2条第2項、施行令第1条別表第一種指定化学物質
労働安全衛生法	該当しない	該当しない
毒物劇物取締法	該当しない	該当しない
	ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル	
化審法(特定化学物質/監視化学物質)	該当しない	
消防法	該当しない	
欧州REACH規制	高懸念物質(SVHC)	
海洋汚染防止法	環境省告示・査定物質(Y類同等の有害液体物質)	
化学物質管理促進法 指定化学物質(政令番号)	法第2条第2項、施行令第1条別表第一種指定化学物質	
労働安全衛生法	該当しない	
毒物劇物取締法	該当しない	

16. その他の情報

制約事項

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別の取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。

参考文献

厚生労働省 職場の安全サイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/>
NITE:独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.nite.go.jp/>